

倫理問題

(令和 6 年度 国際信州学院大学法学部)

【注意事項】

1. 試験時間は 100 分である。
2. 試験開始の合図まで、この問題冊子を開いてはいけない。ただし、表紙はあらかじめよく読んでおくこと。
3. 問題冊子に落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所等があった場合および解答用紙が不足している場合は、手をあげて監督者に申し出ること。
4. 試験開始後、解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入すること。
5. 回答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。解答用紙の裏面に記入してはいけない。
6. 解答用紙を切り離したり、持ち帰ってはいけない。
7. 問題冊子の中の白紙部分は下書き等に使用してよい。
8. 試験終了時刻まで退室を認めない。試験中の気分不快やトイレ等、やむを得ない場合には、手をあげて監督者を呼び指示に従うこと。
9. 試験終了後は問題冊子を持ち帰ること。

1

以下は、隆司サトシ『インターネット記号論』（国際信州学院大学出版会、2022）からの抜粋である。本文の内容に対するあなたの見解を自由に述べなさい。

５ちゃんねるとは何か。この問いに答えるためには、まず５ちゃんねるにおけるコテハン忌避の風潮について、その記号論的背景を明らかにする必要がある。

匿名性のうちに、しかもワントタイム・アイデンティティで書き込むことのできるシステムは、それ自体が所有者の不在を表している。そこでは、述べられたことに対し、誰が述べているのかを決定することは基本的に不可能であり、それは一つの自己言及的言説のように、言説そのものが自らの構造を暴露していることになる。

こうした状況では、一見、作者の不在が、テキストの自由な解釈をうながすかに見える。しかし、それはあくまで、言説の表層的な構造においてのみである。というのは、５ちゃんねるのテキストには、作者の不在にもかかわらず、常に準固定的・類型的な「書き込みスタイル」が伴っているからである。つまり、テキストの表層における作者の不在は、テキストの深層における作者の過剰な存在によって埋め合わせられているわけである。このように、５ちゃんねるのテキストは、「無人」でありながら「過剰に記号化」されている。言い換えれば、テキストの表面的な文脈の欠如は、テキストの深層的な構造における記号の過剰性によって補完されている。

この記号の過剰性とは、具体的にはどのようなものだろうか。それは、「コピペ」と呼ばれる類型的なテキストの断片であり、あるいは「顔文字」や「AA」と呼ばれる記号的なアイコンである。これらの記号は、言説の表層的な構造における作者の不在を埋め合わせるために、言説の深層的な構造において過剰に増殖する。

つまり、５ちゃんねるのテキストにおいては、作者の不在によって引き起こされる意味の欠如が記号の過剰性によって埋め合わされた結果、テキストは「意味の不在によって意味に満ちた」ものとなるのである。エコーを持ち出すまでもなく、そのような記号の過剰性は、言語や記号がある種の遊戯的なコードとして機能し、意味の不在を補完することで、読者や参加者による創造的な意味作用を促進する。言説の不在と過剰が相互に作用することで、５ちゃんねるのテキストは常に複雑でダイナミックな意味構造を持ち、参加者たちの知識や文化的背景によって多様に解釈される。

このような状況は、意味の安定した一元的な解釈を不可能にし、むしろ多元的で矛盾した解釈を容易にする。言説の作者の不在と記号の過剰性によって生み出されるこの状況は、まさに Web 2.0 時代のインターネット・テキストの新たな特性や複雑な現象の一つを示している。

2

以下に示す語句の中から 3 つを選び、その要旨をそれぞれ説明しなさい。

- i. イェーナ宣言 (Jenaer Erklärung)
- ii. アブダクション (abduction)
- iii. 父の名 (nom du père)
- iv. 代示 (suppositio)
- v. 兼愛
- vi. 信仰の騎士 (troens ridder)

3

今あなたの見ているこの問題用紙が、あなたに現れている現象を超えてあなたと独立に存在しているかという問題を考える。これに対し、少なくとも 3 つの学説を参照し、その各立場からどのような解答が導かれるか論じなさい。

4

本学の初代学長コナン・ロシュフォールは、その教育方針を巡り、「浅はかなクレーム等は受け付け」ないとしつつも、「どうしてもという場合は受け付け」という姿勢を一貫したことで知られている。では、ある状況が「どうしてもという場合」であるか否かはどのように判断されるべきか論じなさい。

